

まごころだより

2017年11月号

最近話題になっている本に、五木寛之の「孤独のすすめ」と橋田壽賀子の「安楽死で死なせて下さい」があります。その五木寛之の「孤独のすすめ」に次のようなことが書かれてありました。

「高齢者にかかる年金・医療・介護の費用が大きな負担となり、若者の重荷になってきている。このままいくと、若者は老人を疎んじるようになる。そうならないためには、『これからの時代を生きる人たちは、高齢になっても、自分たちが弱者であるという意識を捨て、自立しなければなりません』と経済的にも身体的にも精神的にも自立し、若者の負担にならないようにすることが大切だ。」

最近「高齢者の自立」ということが盛んに言われ、一昔前のように年をとると家族に見守られ静かに余生を楽しむという時代ではなくなったというのを実感します。また、最近105歳で亡くなった医師日野原重明さんのように高齢になっても元気に社会的活動に励んでいたり、自立的な生活を営み、趣味や仕事・運動で活躍したりしている人も多く、そのような人を目標とするような風潮もあります。私の周りの高齢者の方も「元気なうちは自分たちでなんとか暮らしたい。子供の世話にはならない、なりたくない」と言います。では元気がなくなり、多少手助けが必要になったら、子供の世話になるかというところ、そうではありません。「迷惑をかけたくない」とあくまでも自立を目指そうとします。五木寛之に言われるまでもなく、高齢者はいくつになっても、どのような状況になっても「自立」しようと頑張っています。

では人生百歳の時代、高齢者が生きていく道は五木寛之が言うように「自立」にあるのかというところと残念ながら、私にはそうは思えないのです。なぜなら、人は一人では生きていけないからです。そしてあまりにも「自立」を進めると、かえって不幸なことになってしまうと思うからです。

高齢者に限らず、乳幼児・子供、そしていわゆる若者も、誰かに頼り、誰かに迷惑をかけて生きています。一家を構えて家族を養っている夫や父親だって、妻や母親など周囲の人の理解と協力がなければ

働きに行くことさえできません。一昔前の世の男は「養ってやっている」とよく言いましたが、お金を稼いでくることはできても、ご飯ひとつ炊け





ない人は沢山いました。稼ぎがなければご飯は炊けないかもしれないけれど、稼いだけではご飯は食べられないのです。協力しあって、頼りあって、迷惑かけあってでないと生きていけないのです。いろんなことが出来るようになろう、できるだけ自立していこうという姿勢は必要でしょう。でも他人に頼らない、迷惑をかけない自立した生活は不可能でしょう。どんなに頑張っても家族に迷惑をかけ、頼らざるをえない現実があります。特に高齢になると、トイレの電球を換えることさえ出来なくなるのです。ゴミ出しひとつできなくなるのです。誰かに頼り迷惑をかけないと生きていけないのです。肩肘張らずにそのような現実を受け入れ、「頼る」「任せる」こと、そして周囲の人もそれを認め手助けしていくことが必要だと思っています。

富山型の理念の一つに「共生」というのがあります。高齢者も乳幼児も子供も若者も障がい者も健常者もどんな人も共に生きるということです。「共に助け合って生きる」それが富山型の理念です。

富山型の創始者である惣万佳代子さんは「お互いさまの社会」と言います。若くて元気なときは勿論のこと、障がいがあっても、認知であっても手助けする側に回ることもあるでしょう。でも困ったときは助けを求め頼っているのです。「自立」にこだわっていると助けを求めることはできません。最近は助けを求められず亡くなってしまいう人が増えています。「自立」にこだわると、かえって不幸になってしまうこともあるのです。親子であっても他人であっても助け、助けられ「困ったときはお互いさま」と言えるそんな共生社会・地域・家庭であって欲しい、それが富山型の理念です。決して自立を目指そうではないのです。

しかし、最近はこの「孤独のすすめ」のように迷惑をかけない、頼らない、自立しようという傾向が非常に強くなっていると思います。その最たるものが橋田壽賀子著の「安楽死で死なせてください」でしょう。この本の主題は「認知症になったり、身の回りのことが出来なくなったりしたら、他人に迷惑をかける前に安楽死させてください」というものです。歳をとり、他人に迷惑をかけて生きるくらいなら死にたい。なんとも寂しい話だと思うのですが、橋田壽賀子さんのもとには、多くの人から賛同のメッセージが届いているということです。

歳をとると「自立した生活」を願っていても次第に依頼・依存しなければ生きていけなくなります。お互いに迷惑をかけ、かけられるお互い様の共生社会。そんな社会は「自立」が叫ばれる現代では難しく、先は遠い気がします。しかしこれからの世は「厳しい自立の社会」ではなく、自分のできないことを認め、そして他人の弱点を認め・許す「寛容な共生社会」であって欲しいと思います。そんな「寛容な共生社会」は高齢者だけでなくすべての人にとって生きやすい社会だと思います。

11月の行事予定

- 1日(水) 小物づくり
- 9日(木) 惣菜またはお菓子づくり
- 13日(月) ハーモニカ演奏
- 14日(火) 歌謡ショー
- 24日(金) ピアノ演奏
- 27日(月) 食事会

